**第2章　気象**

**概況（昭和62年）**

　年の初めは、前年に引き続き天気は周期的に変り、冬型の気圧配置になるが長続きせず暖かい冬となった。３月の下旬から６月にかけ寒暖の差が大きく、高気圧におおわれる日が多く晴れの日が多かった。４月の降水量は43mmと少雨になった。６月８日に梅雨入りとなり、７月24日梅雨明けとなった。本年の梅雨は、全般に梅雨前線の活動が弱く、梅雨期間の総雨量は210mm （平年377mm）で平年の56%依然として少雨傾向が続いた。８月の初めは、太平洋高気圧の勢力は弱かったが、以後次第に強まり９月上旬には本年の最高気温が出るなど残暑の厳しい夏となった。秋に入っても晴天の日が続いたが、10月17日に台風19号が四国室戸付近に上陸し、兵庫県明石市付近に再上陸後、近畿地方を縦断して日本海にぬけた。近畿地方に上陸したのは８年ぶりのことだった。その後12月に入ると一時的に強い冬型の気圧配置となり初雪や初氷の観測されたが冬型は長続きせず、気温は次第に上昇して春のような暖かな年末であった。
　主な各要素についてみると、月別平均気温は平年を下回ったのは４月のみで、他の月はいずれも平年並かやや高かった。年間降水量は949mmで平年の68％とかなり少なかった。年間平均日照時間は2062時間（参照値1905時間）とかなり多かった。

**１月**

　周期的に天気が変り、気温変化が大きかった。

**２月**

　11日には平年に比べ16日も早く「春１番」が吹き、最高気温は19.9℃と２月の日最高気温では２位を記録した。

**３月**

　寒暖の差が大きかったが引き続き気温が高く、桜は平年よりかなり早い25日に開花（平年４月１日）した。

**４月**

　帯状の高気圧におおわれ晴れの日が多く、降水量は43mm（平年145.4mm）で過去の４月で一番少ない記録となった。

**５月**

　13日から14日にかけ低気圧が発達しながら南岸上を通り、105.5mmの雨量を観測し、４月の少雨傾向は一時的に解消された。

**６月**

　高気圧におおわれ晴れる日が多く、平年並に梅雨入りしたが前線活動が弱く、日照時間は223.7時間と平年に比べ、77時間も多く降水量は平年の半分以下だった。

**７月**

　太平洋高気圧の張り出しが弱く、平年より７日遅い24日に梅雨明けとなった。

**８月**

　初めは太平洋高気圧が弱く不安定な天気となったが、その後は太平洋高気圧におおわれ暑い晴天が続いた。

**９月**

　前半は晴れの日が多く残暑がきびしく、後半は秋雨前線が活発となり曇雨天の日が多かった。

**10月**

　移動性高気圧におおわれる日が多かった。 17日に台風19号が近畿地方に上陸したが大阪地方には大きな影響はなかった。

**11月**

　月の初めと終り頃、高気圧が北から張り出し南岸の前線の影響で曇雨天となったが、その他は高気圧におおわれ晴れの日が多かった。 30日に初霜（平年より３日遅い）があった。

**12月**

　初めは一時的に強い冬型の気圧配置となり寒気が流れ込み２日に初雪・初氷を観測した。大阪の初雪は平年より26日も早かった。その後下旬に向って南海上の帯状高気圧におおわれ晴れの天気が続き、気温は次第に上昇して、下旬の最高気温の平均は過去最高となった。